

2019年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立阪神特別支援学校分教室

単元名

情報の授業での交流及び共同学習
「情報メディア」

指導目標

- ・情報機器(iPad)を用いて撮影、編集の操作手順を学ぶ。
- ・共同して作業をすることで、他者の考えや思いを尊重する心を養う。

生徒の実態

2年生の14名は卒業後の就労を目指し日々学習に取り組んでいる。学年等の決まった学習集団ではうまくやり取りができていないが、地域活動や企業実習など校外での学習場面になると自分の思いを伝える、質問するなどコミュニケーション面で課題がある。

事前学習

教員同士がまず打ち合わせを行い、お互いの生徒の実態に合わせてグルーピングを行う。一回目の授業では、アイスブレイク等を通じてリラックスしてコミュニケーションが取れるように心掛けた。またこの時間の様子を受けて、再度グルーピングを考え直せるようにした。

学習活動(具体的な取組)

- 1 チーム内のアイスブレイク、iPad操作練習、紹介するものについてのアイデア出し、ストーリー作成
- 2 チームで映像制作(前編)(1) → 作品テーマ 「〇〇についてわかりやすく紹介しよう」
- 3 映像作成講座(1)
- 4 映像作成講座(2)
- 5 チームで映像制作(前編)(2)
作品テーマ 「〇〇についてわかりやすく紹介しよう」
- 6 映像作成講座(3) 7 映像作成講座(4)
- 8~10 チームで映像制作
- 11 作品発表会

支援と留意点

- ・グルーピングをする際には出身中学校や部活動などプロフィールを参考にして、コミュニケーションがとりやすいように配慮する。
- ・映像制作の基本技術を学んだあとは、グループで映像作成する時間を多く設定することで、協力して作業できるようにする。

評価

映像作品を作る作業が中心の授業なので、お互いコミュニケーションを取り合う必要があり、はじめはぎこちないやりとりも、回数を重ねることで積極的な意見交換ができた。中には日常会話を楽しむグループも見られた。

授業以外に校内ですれ違った時には挨拶をする生徒もおり、少しずつ交流及び共同学習の良い効果がみられている。しかしながら、情報の授業のように交流及び共同学習を経験していない生徒にはまだ分教室は遠い存在であるように思われる。

教師間の交流も含め、共生社会に向けて、授業だけでなく様々な場面で交流及び共同学習を深めていきたい。

活動の様子



撮影技術を学び、実際にお互いがモデルになりインタビュー動画を撮影している様子。



分教室の教員をモデルにしてインタビュー動画を撮影。質問内容や構図を相談し、協力して活動している。

事後学習

毎回の授業で振り返りシートを記入し、授業で取り組んだことと次回への課題、目標を把握できるようにしている。

また制作した映像作品を発表し、評価をもらうことで自己の取り組みを客観的に見る、達成感を味わうことができるようにしている。

成果と課題

情報の授業での交流及び共同学習は、回数を確保して継続的に取り組んでいることで、より良いコミュニケーションや関係性を築くことができています。また数年が経過したことで、授業の展開や流れを両校で共有できています。多くの授業回数を実施できており、情報や総合的な学習(探求)の時間を柱として、各教科での交流及び共同学習の広がりにつなげていきたい。

今後の課題としては、交流及び共同学習を通じて育まれた関係が、様々な場面に一般化していけるような環境や学校関係を模索していきたい。